

2015年、当社は100周年を迎えました。  
当社の歴史や製品にまつわる収蔵品がある  
博物館・美術館をご紹介します。

# 安川電機 & ミュージアム

第6回

## 棟方志功記念館

所在地 青森県青森市松原2丁目1番2号  
開館時間 4月～10月 午前9時00分～午後5時00分  
11月～3月 午前9時30分～午後5時00分  
休館日 月曜日(祝日及びねぶた祭り期間は開館)、年末  
URL <http://munakatashiko-museum.jp>



### <博物館の概要>

青森が生んだ世界に誇る板画家 棟方志功画伯の文化勲章受章を讃え、その芸業を末永く後世に伝えるため、青森県、青森市をはじめ多くの方々の協力のもと、1975年(昭和50年)に「棟方志功記念館」が開館しました。校倉造りを模した建物は、池泉回遊式の日本庭園と調和し、落ち着いた佇まいは、季節の移ろいととも四季折々の風情を感じさせてくれます。



棟方志功記念館 展示室

### <コレクションと当社の関わり>

棟方志功画伯と当社との関係は、1951年(昭和26年)頃、当時の宣伝課長が画伯の板画に大変興味を持ち、東京・荻窪にあるアトリエを訪問したのが始まりです。その後、当社に飾る作品やPR誌のイラストなどをお願いしながらおつきあいを重ね、1958年(昭和33年)に「安川ニュース」の付録として画伯の作品を題材にした最初のカレンダーを制作しました。以来、「安川カレンダー」は画伯の作品を題材としてご好評をいただいております。

その後、画伯は晩年を鎌倉山で過ごし、自らのアトリエ「雑華山房」の跡を「棟方板画館」として公開、没後に「棟方板画美術館」に改名されました。多くの方に愛されていましたが、2012年(平成24年)に閉館、青森の「棟方志功記念館」に吸収合併されたことにより、収蔵作品数は国内最多を誇ることとなりました。当社の創立100周年記念として発行した今年の安川カレンダー「釈迦十大弟子」の原画も、ここに収蔵されています。

これらダイナミックな板画のほか、繊細な表現を見せる倭画(肉筆画)、ゴッホに憧憬した油絵、力感に溢れた書など、その充実した作品群から年4回の展示替えを行っており、何度足を運んでも楽しめる美術館です。また、作品展示に加え、板木を含む関連資料など幅広く紹介しています。

ぜひこの秋は青森へ足を伸ばし、燃えるような紅葉と、魂を揺さぶるアートを堪能しませんか？



棟方志功《釈迦十大弟子》須菩提の柵(左)、富楼那の柵(右)